

アナログプレイヤーの比較試聴(20)

—モーツアルトを聴く(20)—

1. 始めに

前報(19)に引き続き、アナログプレイヤー3機種の比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は、ThorensTD124とGrrad401の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はアンサンブルの曲です。

Trio Record PAC2009

モーツアルト ヴァイオリン協奏曲第3番ト長調

ヴァイオリン協奏曲第4番ニ長調

フランコ・グッリ (Vn・指揮)

ミラノ・アンジェリクム管弦楽団

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

ZANDEN Model120経由のLINN LP-12とThorensTD124では、ZANDENのリストに従い、EMI、逆相、第4時定数Lowで聴いていきます。

ThorensTD124の再生では、艶もあり、響きも豊かですが、少し音の焦点がぼやけるところがありますので、第4時定数をLow→Mid→Highと切り替えてみたところ、Highで響きもあり、音の焦点がしっかりしてきた感じです。

LINN LP-12の再生では、第4時定数はHighのままでもよく、響きの豊かさに繊細な表現が加わってきます。

Grrad401の再生では、LINN LP-12に比べて繊細な表現は劣りますが、艶もあり、勢いのある表現です。

4. まとめ

ThorensTD124とGrrad401の再生経路を変更した結果も、3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、それぞれ艶とか、繊細感とか、勢いとかの魅力を感じさせてくれました。

以上